

SSKS

VOL.135

結の実通信135号

特定非営利活動法人結の実

ホーム・まな開所 20年記念号

理事長 小林 輝彦

2004年4月に開所したホーム・まなも、開所20年を迎えます。改めましてこの20年の間にホーム・まなを様々な形で支えて下さった皆様に、この場を借りて心より御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

2004年5月22日には、開所式を行いました。私も、新人職員として参加しております。法人事務所に当時の資料がまだ保管されていますが、当日参加者の皆様に渡された「ホーム・まな設立までの経過」には、ホーム・まな開所に至るまでの歴史が載せられていました。その最初の部分は以下の通りです。

1988年9月：「生活ホーム結」設立

町田養護学校在学中の子や心身障害児学級在学中の子を持つ親8人が中心となって‘どんなに障害が重くても、地域の中で、地域の人々と共に暮らしてほしい’との思いから設立。生活ホーム(グループホーム)設立を最終目標とし、週1回の活動を開始した。

改めて読み返すと、ホーム・まな設立までに、様々な努力や思いがあったことが伺えます。初期のメンバーの中には、現在もお子様がまな入居者として生活している方もいらっしゃいます。今回の結の実通信では、まな開所前から設立に向けて関わり、開所時から現在まで入居を継続されている、3名の入居者のご家族から、様々なお話を聞きながら、20年を振り返りたいと思います。実際にグループホームに入居して20年経つ入居者ご家族の話聞くことにより、これからグループホーム入居を考えている皆様の参考にしていただければ幸いです。なお、帰る場所がなく、365日入居生活を続けているホーム・ゆいの入居者と違い、ホーム・まな入居者はご家族も皆さんお元気で、今回の3名の入居者も週末にはご自宅へ帰宅される生活を続けていらっしゃいます。

私自身振り返ると、20年勤務を続ける中で、様々な出来事がありました。入居者も増え、たくさんの職員と一緒に仕事をして、様々な楽しい経験をさせていただきました。同時に、様々な困難な出来事にも直面し、皆でそれを乗り越えていったと感じております。

しかしながら、現在、障がい者福祉を含む福祉業界は、さらに厳しい現状に直面しています。今回の通信では、その詳細には触れませんが、次の20年経ったときにもう一度笑顔で振り返ることができるように、最初の想いを忘れないで努力をしていきたいと改めて感じました。皆様、引き続き見守っていただけたら幸いです。

結の実は地域の障害がある人々や子どもたち、高齢者などに対して、必要とする福祉サービス等を提供し、社会的・経済的自立を支援するとともに、社会参加促進に関する事業を行い、障害の種類・程度に関わらず、すべての人々がゆたかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを目的としています。

グループホーム運営方針

- ① 障がいの程度にかかわらず、入居者が健康で自立した生活が営めるように支援を行なう。
- ② 入居者の個性を理解し、それぞれの入居者が今まで営んできた生活環境を尊重した支援を行なう。
- ③ 入居者の人権を擁護し、就労や社会参加等充実した社会生活が送れるように、関係施設や地域と連携していく。

法人沿革

- 1988年9月 課外グループ「生活ホーム結」設立
- 1991年4月 通所訓練の場「通所施設・結」開所
- 1994年7月 宿泊訓練「生活ホーム・結」開始
- 2001年9月 「特定非営利活動法人 結の実」認可
- 2004年4月 男性ホーム「ホーム・まな」を開所
- 2008年3月 女性ホーム「ホーム・ゆい」を開所

～ ホーム・まな開所 20年企画 ～

今回の通信では、まな開所時から、現在まで生活を続けているGさん、Yさん、Mさんの3名の入居者のご家族に、様々な質問に答えていただきました。3名のご家族の話を伺いながら、20年を振り返ってみたいと思います。

質問① 入居時と20年後である現在を比べて、入居者本人、及びご家族様が変化したと感ずることは何ですか？

Gさんのお母様

入居時、子どもは20代、親は50代、お互い元気で先の心配もなくホームの生活を満喫、親は精神的にも身体的にもゆとりができ、自分の親の介護も安心してできました。

そして今、子供は代謝の悪さもあってか体重も増え意思もはっきりとして嫌なことには力任せに抵抗、逆に親は体力がなくなり時に翻弄され肉体的にこれからの心配が頭をよぎります。

Yさんのお母様

本人、両親共に年を重ねました。まなのことは、第2の家の様に慣れたみたいです。入居時20代だったのが40代になり、本人の体力は落ちたみたいです。睡眠時間も長くなりました。食べるのも早くなりました。

Mさんのお母様

親子ともに老化が進み、できなくなったことが、非常に多くなりました。息子に関しては、特に足腰の衰えが顕著であり、週に2回プールで水中歩行を1時間程行つて、衰えを少しでも防ごうと努力はしていますが、歩幅が狭くなり、歩く速さも遅くなり、立ち止まることが多くなりました。また、バランスを崩すと踏ん張ることができず、そのまま倒れ込んでしまうことがあります。

また、入居時には、生活ができるかどうかの心配がありましたが、長い経験で親の元を離れても、日々穏やかに過ごして居るので不安はありません。入居時には病気などの心配をせずにホームに託していましたが、20年間の後半には、コロナ禍もあり病気やケガが多くなって、その都度引き取って面倒を見る機会が増えました。

☆☆ 3名のお話を受けて ☆☆

皆様20年経って「年を重ねた」というご意見が多かったですね。具体的な変化は、日々支援をしていく中で数多くあります。ただし、急に変化があったわけではなく、加齢に伴って少しずつ、変わっていったという印象です。20年の間に都度、関係者が集まり、対応を話し合ってきました。



質問② 入居時と20年後を比べて、変わっていないことはありますか？

Gさんのお母様

通所、ホーム、自宅と生活の場が違ってそれぞれの場をしっかりと認識、把握して対応できているところは感心します。新しいスタッフのかたには、少し抵抗するところも変わっていません。

Yさんのお母様

音楽好きなところと、散歩好きなところ（特に電車に乗ること）は変わっていません。

Mさんのお母様

ホームに対する信頼です。時々信頼をなくしたこともありましたが、その都度納得いくまで話し合い、信頼につなげていきました。

☆☆ 3名のお話を受けて ☆☆

Gさんのお母様、Yさんのお母様はご本人の変わっていないところを挙げて下さいました。加齢に伴っての変化はありますが、同じ人間、根本的なところは変わっていないと思います。Mさんは、Mさんを含むご家族とホーム・まなとの信頼関係の話でした。20年もあればその間にいろいろなことがあります。ただし、大切なことは、しっかりと話し合い、お互いに納得しながら進んでいくことだと改めて感じました。

質問③ ご家族様が考える理想のグループホームになるために、「ホーム・まな」に求めるものは何ですか？

Gさんのお母様

理想のグループホームは、入居者が安心して生活できるホーム、親にとっても安心して子供を託せるホーム。それには職員、スタッフのみなさんが「結の実」の理念を共有して下さる事です。

Yさんのお母様

出来るだけ長くホームでの生活が続けられるように、今親がやっている通院などについても、やってほしいとは思いますが・・・病院は近くではないので、どうしたらよいかと思います。

Mさんのお母様

今は休日を自宅で過ごし、旅行などにも出かけています。今後ホームでの休日余暇の過ごし方を、ホームにいただけではなく、散歩をしたり、買い物やドライブ等、外出の機会を増やして欲しいと願っています。

医療の問題では、今は病気や怪我の時は引き取っていますが、親が対応できなくなる時が必ず来るので、病気や怪我で、通院や入院をした時もホームで対応できる体制を、是非整えて欲しいと思っています。

☆☆ 3名のお話を受けて ☆☆

皆様それぞれ求めるものを挙げていただきました。通院の件、本人に帰る場所がなく、1足先に365日対応を実現しているホーム・ゆいではきめ細かな対応をすでに行っています。ただし、ご家族と遠い場所に通院されていた方は、ホームの近くの場所に移っていただくようにしています。また、入院に関しては、まな・ゆい共に対応を何回かしていますが、対応に限界があることも今後の課題です。



質問④ ホーム・まなのこは満足しているという点があれば教えてください。

Gさんのお母様

職員、スタッフ(非常勤職員)の皆様の対応が穏やかなことです。
室内の整理整頓がきちんとされています。
お願いしているケアがちゃんとされているので安心しています。

Yさんのお母様

スタッフの方々が、息子の意思をできるだけ組んで接してくれているところ
です。

Mさんのお母様

常勤のスタッフがほとんど変わってないので安心です。作業所や親との連絡を細
やかに取ってくれるし、作業所が運営しているホームではないので、昼と夜のメン
バーやスタッフが違うのも入居者にとっては、とても良いことだと思います。

☆☆ 3名のお話を受けて ☆☆

満足していただいている内容を見てほっとしました。まな、ゆいで我々がこ
だわって丁寧に行っているところを挙げていただいているように感じます。整
理整頓は、いつ誰が行うかも含めて計画をたてて実践しています。「きちんと掃
除している」ことを入居理由に挙げていただいた方もいらっしゃいます。細か
い連絡調整も、丁寧に行うことを心がけています。20年間積み重ねてきたこれ
らのことを今後も継続していきたいと思います。

質問⑤ 20年ホームで生活する中で、ご家族様も様々な職員を見てきたと思
います。このような職員なら安心して任せられると思える職員像を教えてください。

Gさんのお母様

子どもの姿、行動をありのまま全てを丸ごと受け入れることのできる職員、
スタッフ（非常勤職員）

Yさんのお母様

無理強いしない。気持ちに寄り添う。自然に接する。気負わない。

Mさんのお母様

個々人の良いところ、足りないところがありますが、スタッフチームとして任せられる方向になってくれれば良いと思います。男性寮なので、支援スタッフが男性のほうがはるかに多いですが、家での母親のような、きめ細かな対応ができるスタッフを採用するか、育成を心がけて欲しいです。

☆☆ 3名のお話を受けて ☆☆

職員にも色々な方がいます。福祉に情熱を燃やしている方、生活のためにダブルワークをしている方・・・様々な価値観があるとは思いますが、皆仕事として責任感を持って引き受けて下さっています。そして、入居者との関係は、時間が経過するとともにお互いの理解が深まりお互いを受け入れられるようになっていっているのかなと感じています。まな、ゆいの職員さんは、長く関わって下さっているかたが多いです。そのようなところを見てGさんのお母様も「丸ごと受け入れる」という表現を使ってくださっているのかもしれない。まなは男性ホームですが、女性職員も働いています。ただ、男女関係なくきめ細かな対応ができるスタッフになれるように引き続き自己研鑽していきたいと思います。



質問⑥ 最後に、次の20年に向けて思うことその他自由をお願いします。

Gさんのお母様

入居してから20年、言葉でいうのは簡単ですが長い年月を思うと感謝しかありません。これからの20年、何が起きるか予想が付きませんが、問題が起きた時に適切な指導、アドバイスをして頂ければ嬉しいです。

Yさんのお母様

病気のためのいくつかの症状が、今後も変わらず現状維持してくれることを願っています。

本人が年を重ねた時に（具体的には現在の46歳から20年後66歳になった時に）本人の状態にもよりますが、ホームにまだいるのかいないのか想像が付きません。少し具体的に考えなければいけないところかなと思います。

20年後も変わらず、今の生活ができればよいと思います（親はたぶんいないでしょうが）。

最初の頃は、ホームに宿泊の時どうしているか心配でしたが、20年経つと、今では安心して任せられるようになりました。積み重ねが大切ですね。

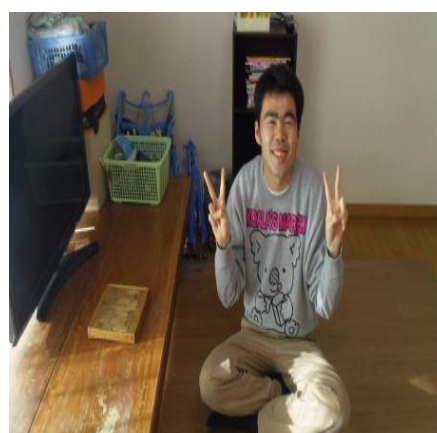
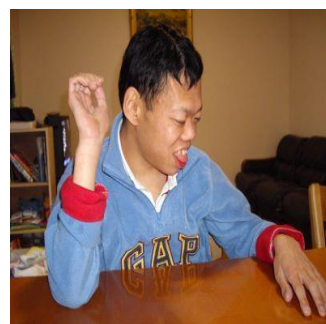
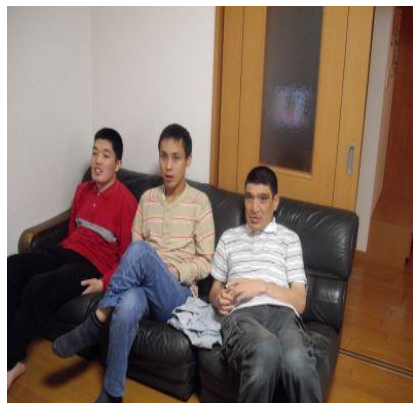
Mさんのお母様

親は他界している可能性が高いので、今現在親が担っていることを後見人さんに全てお願いはできません。益々ホームの力が必要になってくると思います。法案が色々変わった時期を乗り越え、ホームとしての先駆けを成し遂げてくれたと思います。その経験を生かし、よりよい生活の場としてのホームを期待します。障害者福祉から老人福祉に移行する年齢になっていくので、その時々の方針や実情に沿った臨機応変な対応を、利用者に寄り添った方向でお願いをしたいと思います。

☆☆ 3名のお話を受けて ☆☆

この先20年後は、想像するのも難しいですね。次の20年は、「親亡きあと」の問題に本格的に取り組む時期かなと感じています。職員の世代交代もあるでしょう。持続可能な運営ができるように現在次世代育成も含めて準備をしています。入居者の皆様も、ご家族も職員も皆不安に思うことがあると思います。ただ、結の実の理念を忘れずに、今後とも、一緒に考え、困難を一つずつ乗り越えていけたらと思います。





事務局からのお知らせ

☆ 2024年度総会に関して、例年より早く、5月25日の開催予定となっております。また、新型コロナウイルス感染症は5類へ移行しておりますが、まなゆい入居者に関して、新型コロナウイルス、インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎等感染防止の観点から、引き続き感染対策を徹底している現状です。2024年度からは、感染防止対策への取り組みが、事業所に義務化されることになりました。そのため、今年度も多人数で集まっての総会開催は控えさせていただきたいと考えております。一般会員の方には、書面での議決をお願いいたします。本来なら、会員の皆様のご意見を伺う貴重な機会ではありますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

総会資料発送予定日	: 5月13日(月)
書面表決書提出締切日	: 5月23日(木)
総会開催日(一般会員の皆様は書面上での参加)	: 5月25日(土)

☆ 2023年度第5回理事会が、2024年1月27日に開催されました。理事会では、新規入居希望者について、職員育成計画案について、定款変更案について討議が行われました。定款変更案については、2024年度総会での議案となる予定です。

☆ 年度内4回発行を目指して、結の実通信作成準備を進めてきました。2023年度最後の発行となる今号は、期限ギリギリでの発行となりましたが、なんとか予定通りの回数を発行することができました。今号は特に、ホーム・まな開所20年記念号として、皆様にお届けすることができたことをうれしく思います。今後とも会員の皆様、関係施設の皆様、行政の皆様、その他関係者の皆様に、結の実の事を知っていただく広報誌としての役割を果たしていく所存です。現在、結の実に関係する様々な制度改正も行われておりますが、それらへの対応など、結の実が適正な法人運営、事業所運営を行っていることを情報公開していきます。2024年度もどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人結の実の法人理念や事業運営方針の趣旨にご賛同いただき、ご支援して下さる方々の入会及び寄付をお願い申し上げます。

年会費 2000円

郵便振替口座 00110-2-355729

口座名義

特定非営利活動法人結の実

* 郵便振替用紙に、お名前・住所・電話番号・〇〇年度会費として、のご記入をお願いします。

* 入会時期に関わらず、会員資格は年度ごとの更新となります。

寄付 1名 （2023年12月16日～2024年3月15日）

難波道子

2023年度 更新会員 52名 （2023年12月16日～2024年3月15日）

橋本和子

2023年度 新規会員 0名 （2023年12月16日～2024年3月15日）

（順不同・敬称略）

☆ご支援まことにありがとうございました☆

結の実通信 135号

『編集』特定非営利活動法人結の実 事務局

〒194-0046 東京都町田市西成瀬 1-39-13

TEL/FAX : 042-725-8693

E-mail : yuinomi@star.ocn.ne.jp

ホームページ <https://yuinomi.org>

『発行』特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

TEL : 03-6277-9611 FAX : 03-6277-9555 定価 50円